

研究・調査報告書

報告書番号	担当
104	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Beverage intake, diabetes, and glucose control of adults in America. 米国成人における飲料物摂取と糖尿病および血糖コントロールの関係	
執筆者	
Mackenzie T, Brooks B, O'Connor G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Epidemiol. 2006; 16(9): 688-91	
キーワード	
アルコール、HbA1c、NHANES (米国国民栄養調査)、炭酸飲料	
要 旨	
<p>背景： 飲料物は食餌の重要な因子であり、カフェイン、エタノール、その他の生体活性物質摂取の担体となる。本研究の目的は米国成人における糖尿病有無による摂取飲料物の種類と血糖コントロールの関連を調査することにある。</p> <p>方法： 米国の代表的な非入院市民を対象に第3次米国国民栄養調査(NHANES, 1988～1994年実施)が実施された際、糖尿病の有無、HbA1c値と1ヶ月間の思い出し法による食品摂取頻度調査を行った。18～75歳の調査参加者を対象に回帰解析他を用いて炭酸飲料、アルコール飲料、コーヒー、紅茶、ジュース、ミルクの自己申告摂取量とHbA1cの関連を糖尿病の有無に分けて検討した。</p> <p>結果： 成人糖尿病患者は非糖尿病患者に比べて半量しかアルコール飲料を摂取していなかった。非飲酒者に比べ1ヶ月に30飲酒単位(1飲酒単位はエタノール11.5g、あるいは350ml缶ビール1本の飲酒に相当する)以上の飲酒者は糖尿病患者においてはHbA1cが1.2ポイント低く、非糖尿病患者では0.2ポイント低かった(いずれも$p < 0.001$)。成人糖尿病患者では非糖尿病患者に比べてダイエット炭酸飲料の摂取が3倍あった。しかし、1日1本以上ダイエット炭酸飲料を飲んでいた成人糖尿病患者は全く飲まない成人糖尿病患者に比べてHbA1cが0.7ポイント高かった($p < 0.001$)。</p> <p>結論： 適量であれば飲酒は血糖コントロールにより影響を及ぼす。成人糖尿病患者ではダイエット炭酸飲料の摂取量と血糖コントロール不良とが関連していた。</p>	